

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
平成 28 年 12 月

○ 概要

(1) 平成 28 年 12 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,628 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲7.4%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,077 円（伸び率▲9.4%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,661 億円（伸び率 2.9%）、薬剤料が 4,956 億円（伸び率▲10.4%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 793 億円（伸び率 1.7%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,556 円（伸び率▲14.4%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.90 種類（伸び率▲0.9%）、23.0 日（伸び率 0.2%）、83 円（伸び率▲13.8%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 4,057 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲579 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 888 億円（伸び幅▲96 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の 11 億円（総額 256 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,057 億円 (▲579 億円)	21 循環器官用薬 (888 億円)	11 中枢神経系用薬 (687 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (569 億円)
0 歳以上 5 歳未満	44.7 億円 (▲8.7 億円)	44 アレルギー用薬 (19.5 億円)	61 抗生物質製剤 (10.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (6.7 億円)
5 歳以上 15 歳未満	102 億円 (▲7.0 億円)	44 アレルギー用薬 (41.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (17.1 億円)	61 抗生物質製剤 (16.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,421 億円 (▲205 億円)	11 中枢神経系用薬 (296 億円)	21 循環器官用薬 (271 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (211 億円)
65 歳以上 75 歳未満	1,004 億円 (▲207 億円)	21 循環器官用薬 (268 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (169 億円)	11 中枢神経系用薬 (119 億円)
75 歳以上	1,485 億円 (▲151 億円)	21 循環器官用薬 (346 億円)	11 中枢神経系用薬 (255 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (184 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,077 円（伸び率▲9.4%）で、最も高かったのは石川県（10,908 円（伸び率▲10.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,721 円（伸び率▲18.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率▲6.6%）、最も低かったのは佐賀県（伸び率▲18.7%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 793 億円（伸び率：1.7%、伸び幅：13 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	67.9%	+7.0%
薬剤料ベース	16.0%	+1.9%
後発品調剤率	68.3%	+4.1%
（参考）数量ベース（旧指標）	45.1%	+4.2%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量） + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.7%	+13.4% (15 歳以上 20 歳未満)	▲5.6% (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.0%	16.9% (75 歳以上)	10.7% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	702 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (194 億円)	23 消化器官用薬 (117 億円)	11 中枢神経系用薬 (82 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.5 億円 (+0.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	44 アレルギー用薬 (1.7 億円)	61 抗生物質製剤 (1.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	15.1 億円 (+1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (5.8 億円)	61 抗生物質製剤 (3.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	236 億円 (+6 億円)	21 循環器官用薬 (55 億円)	11 中枢神経系用薬 (35 億円)	23 消化器官用薬 (34 億円)
65 歳以上 75 歳未満	176 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (63 億円)	23 消化器官用薬 (29 億円)	33 血液・体液用薬 (20 億円)
75 歳以上	268 億円 (+7 億円)	21 循環器官用薬 (76 億円)	23 消化器官用薬 (53 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,086 円	1,452 円（北海道）	910 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲0.6%	+4.2%（香川県）	▲5.3%（山形県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	67.9%	78.9%（沖縄県）	58.3%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.0%	20.5%（鹿児島県）	13.0%（徳島県）
後発医薬品調剤率	68.3%	78.0%（沖縄県）	61.3%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	45.1%	55.6%（沖縄県）	39.2%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成28年12月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。